

鴨川・古墳群をめぐると「風」と「時」の流れを感じて!

鴨川沿い一帯は、大宮の自然と古代の雰囲気を感じることができるエリアです。広大な水田がひろがり、春には土手の桜を楽しむことができ、流域に点在している側ヶ谷戸古墳群が古代を感じさせてくれます。鴨川周辺を巡りながら、広大な水田に流れる「風」と古代からの「時」の流れを感じてみてはいかがでしょうか。



スタート 大宮駅 → バス停「三橋四丁目」下車 **道のり** 約3.1km

1 稲荷塚古墳 (約400m) (校内に立ち入る際は、許可が必要)
稲荷塚古墳は、さいたま市立大宮国際中等教育学校の敷地内にある円墳で、側ヶ谷戸古墳群の中で最大規模の古墳です(墳丘径約35m、墳丘高約6m)。古墳からは人物埴輪や円筒埴輪、碧玉勾玉、刀などが出土しており、6世紀中頃の古墳と推定されています。また、頂部には稲荷神社が祭られ、シイの大き木が繁っています。

2 関沼木道 (約500m)
「関沼」は、徳川家康から関東地方を治める代官として任命された伊奈備前守忠次が、約400年前に築いた灌がい用の溜め池です。現在は、木道や野鳥観察施設が整備され、葎が生い茂り、たくさんの野鳥が飛来するため、自然を満喫できるスポットになっています。

3 茶臼塚古墳 (約500m)
茶臼塚古墳は、稲荷塚古墳から南西に400mほど離れた場所にある円墳です(墳丘径約30m、墳丘高約3.8m)。6世紀後半の古墳と推定されていて、埴輪片や緑泥片岩が出土しています。古墳の西側の水田には、かつて「井刈古墳」という前方後円墳があったといわれています。

4 藤橋 (約560m)
鴨川に架かる「藤橋」は、かつてその名のとおりの藤のついで編んだ橋だったことから、そう呼ばれています。江戸時代後期に、ここを通行する村民が難渋している様子を見た廻国行者の小平次が、資金を集め立派な石橋を架けました。(現在はコンクリート橋になっています)

5 台耕地稲荷塚古墳 (約200m)
台耕地稲荷塚古墳は、側ヶ谷戸古墳群の中でもっとも南に位置している円墳で、墳頂には現在、稲荷社がまつられています(墳丘径約24m、墳丘高約2m)。7世紀前半の古墳と推定されています。遺体を納めた施設は、全長4.4mの両袖形式の横穴式石室で、水晶製切子玉、ガラス製小玉、土製漆塗小玉などの装飾品と太刀・刀子・鉄鍔などの武器類が副葬品として出土しました。

6 上之稲荷古墳 (約500m)
上之稲荷古墳は、住宅に囲まれた中にある円墳で、墳頂には現在、稲荷社がまつられています。6世紀後半の古墳と推定されていて、かつては直径20m、高さ2mを測る円墳でした。また、円筒埴輪の小破片が採集されています。宅地化が進む地域の中にありながら大切に守られてきた古墳です。

7 山王山古墳 (約240m)
山王山古墳は、慈實院の境内、南側の墓地内にあり、かつては円墳だったと推定されています。現在、墳丘は削られ石室の一部が露出した状態となっており、石室内から勾玉、ガラス玉などの副葬品が発見されたといわれています。

ゴール バス停「慈實院」乗車 → 大宮駅

※側ヶ谷戸古墳群(市指定史跡)は、稲荷塚古墳、台耕地稲荷塚古墳、茶臼塚古墳、山王山古墳、上之稲荷古墳を指します。

大宮・ものしりコラム!

鴨川沿いに広がる風景

鴨川は、大宮区と西区の区境付近を流れる一級河川です。土手には、たくさんの桜が植えられていて、春はお花見スポットとして、賑わいを見せます。鴨川沿い一帯は、関沼木道の南に広がる田んぼとともに、季節ごとの変化を楽しむことができ、自然を満喫できるエリアとなっており、大宮二十景の一つです。



側ヶ谷戸貝塚と古墳群

大宮区三橋には、縄文時代前期から後期にかけての貝塚が点在しており、三橋4丁目の側ヶ谷戸貝塚からは、様々な考古資料が出土しています。また、6世紀から7世紀の前半になると、鴨川沿いの台地に側ヶ谷戸古墳群が形成されましたが、同古墳群から出土した埴輪などは、市立博物館(大宮区高鼻町)で展示しています。



▲市指定文化財 馬形埴輪 (側ヶ谷戸古墳群11号古墳出土)